



《こども版》 としょかんだより No. 312

2010年

6月号

わくわく本だな

富山市立図書館

今月のおすすめ



★ = 1・2年

★★ = 3・4年

★★★ = 5・6年

—あたらしくはいった本の中から、おすすめの本をしょうかいします—

「ちゅうしゃなんかこわくない」 (えほん)

穂高 順也 / 作 岩崎書店



今日は、ちゅうしゃをしなくちゃいけない日。ちゅうしゃはいたい、こわい、だいきらい。「にげ出したい」というぼくの気持ち体がぬけ出して“ちゅうしゃのいたくない”へとんでいった。

「まじよまじよリーナ」 ★

たちもと みちこ / 作 ポプラ社

小さなまじよのリーナは、森の家に一人ですんでいました。ある日、女の子が大きな木についていたとびらをくぐって、リーナの家に来ました。なんと、その子の名前もリーナです。まじよのリーナはいろいろなまほうを見せてあげました。



「シュンタの『ぼくち新聞』」 ★★

新沢 としひこ / 作 理論社



シュンタの家はパパ、ママ、お姉ちゃんの四人家族です。友だちにからかわれたシュンタは、「これからはママをおかあさんとよびたい」と言い出しました。さっそくその夜、“ママ”についての家族会議がひらかれました。

あたらしくはいった本

えほん

「カッパのあいさつ」 高島 那生／作 長崎出版



カッパのあいさつはうしろむきのおじぎです。でも、いきおいがつきすぎて、あたまがぶつかりおさらがわれてしまいました。コーヒーカップにかつら、あざらし……。かわりにのせる、よいものがみつかるでしょうか？

「フェドーラばあさんおおよわり」 K. チュコフスキー／作 偕成社



木おけやホウキ、なべやお皿たちが、フェドーラばあさんの家からにげ出しました。ずっと、がらくたみたいなひどいあつかいだっただからです。ばあさんが追いかけてきても、もどる気なんかありません。

ものがたい

「たっくんとぼく」 ★ 清水 千恵／作 文研出版



ぼくのとなりのせきのたっくんはかわっている。大きな声を出したり、すぐないたりする。一人できがえもできないから、手伝わなきゃならないんだ。ある日、ぼくを追いかけてきたたっくんが、かいだんから落ちて大ケガをしてしまった！これってぼくのせい？



おしえて、世界のおはなし ポーランド



ポーランドは東ヨーロッパにある国です。有名人にはショパンやコペルニクス、キュリー夫人などがいます。

ポーランドの絵本では「しずくのぼうけん」(ボフダン・ブテンコ／え、福音館書店)がよく知られています。また、絵本作家のユゼフ・ヴィルコンは「三びきのちびっこライオン」(講談社)など多くの絵本を描いています。新しく出た本では、「仕立屋のニテチカさんが王さまになった話」(偕成社)という昔話の絵本がありますよ。



ものがたい

「ゆかいな農場」★★

マルセル・エーメ／作 福音館書店



デルフィーヌとマリネットの幼い姉妹は、農場の動物たちとたのしくくらしています。ある大雨の日、二人で留守番をすることになり、ノアの箱舟ごっこを始めました。大洪水になると聞いて、動物たちが大あわてで台所に集まってきました。

「学校クエスト ほくたちの罪」★★★★

中松 まるは／作 童心社



小学生モニターに選ばれた5人は、小学校を舞台にした体感ゲームに参加しました。ところがこれは、クリアするまで止められない、ゲームの中で死ぬと本当に死んでしまうという恐ろしいゲームでした。5人は、次々におそいかかる化け物を、必死でたおしていきます。

ちしきの本

「めざせ!キッズ・ライブラリアン 図書館が大好きになる

① 図書館のヒミツ」 鈴木出版



本を読むと、わくわくドキドキしたり、様々なことを知ることができます。図書館では、たくさんの本がどんなふうにおいてあるのでしょうか。自分が見たい本をどのように探したらよいのかなど、図書館の使い方がわかりやすく書いてあります。

「数字ってこ～んなにオモシロい!! ①身の回りの数字」 教育画劇



雲や山はなんて数えるか知ってる? 琵琶湖は富士山がいくつ入る大きさかな? 実は6がすごい数字だという話や、数字のごろ合わせ、数字を使った言葉など、いろいろな数字の面白い話のっています。



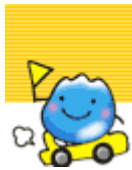
名作をよもう！
今月の1さつ



「^{と かい}都会にきた天才コオロギ」 ★★

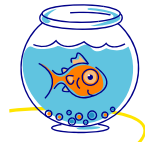
ジョージ・セルデン／作 学研

都会の地下鉄の売店で新聞を売っている少年・マリオは、ある晩、紙くずの中からコオロギを見つけました。マリオは、マッチ箱に大切に入れ、売店において帰ります。そこに、ネズミのタッカーとネコのハリーがやってきて、3匹はなかよくなりました。ところが、大事な売店のお金を食べてしまったり、パーティーをして火事をおこしてしまいます。マリオは、びんぼう神のコオロギを追い出すよう、ママに言われてしまいました。



とやまし あ・れ・こ・れ

富山ガラス工房



富山市は、“ガラスの街づくり”に取り組んでいます。
 ガラスを作る人たちが新しい作品を作り出すための場所が、富山ガラス工房です。作っている風景を見学でき、作品の展示や販売も行っています。また、いろいろな体験コースもあります。世界に一つしかない自分だけのガラス作品を作ることができますよ。



梅雨の季節です。本が雨にぬれないように気をつけてね！



< 編集・発行 >

富山市立図書館

富山市丸の内1丁目4-50

電話 076-432-7272